

2(2).濁音(にごった音)の指導 (6時間)

が行...2時間 ざ行・だ行・ば行・ぱ行...各1時間

が

の指導 1 / 6

(50音図をしめして)

今日から、今まで勉強してきた音とよくなっているけれど、ちょっとちがう音の勉強をすることを伝える。

(からすの絵)を提示して、これは何かを問う。

ボタンであらわす。「・・・」

(がらすの絵)を提示して、これは何かを問う。

ボタンであらわす。「・・・」

同じ音とちがう音を出させる。

「か」と「が」がちがう。

音が一つちがうだけで、あらわすものがちがうことをおさえる。

「か」と「が」の音について考える。

・音はにているか?

・発音のしかたはどうか?

友だちどうして口のかたちを見合う。

口に指を入れて、舌の動きを観察する。

・「か」と「が」の音の作り方が同じであることを確認する。

・「か」と「が」はどうちがうのか考える。

これは、かなりむずかしい。

のどに手をあてて、のどのふるえを感じさせる。

「か」よりも「が」のほうがよくふるえていることを感じさせる。

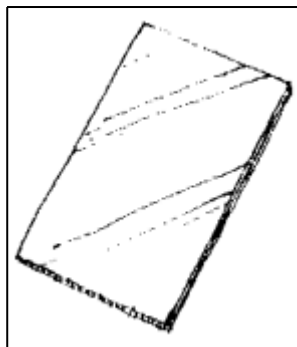
(*友だちどうし見合って、声を出さないようにして「からす」「がらす」を言わせてみる。また、ささやき声で言わせてみる。ちがいに気がつくかもしれない。)

「か」と「が」はにているけれど、ちがう音であることをたしかめる。

(すんだ水の入ったビーカーとにごった水の入ったビーカーを示し)

「か」と「が」は、それぞれ、どちらの水とにているか。

きれいな水を「すんだ水」といい、「か」のような音を「すんだ音」という。



きたない水を「にごった水」といい、「が」のような音を「にごった音」という。ということを教える。

文字の書き表し方

すんだ音の か は「か」と書く。

にごった音の が は、「か」の字に小さい点をふたつつけて「が」と書く。

きれいな水の池に二つの石を投げ入れて、水をにごらすような感じだ。

このふたつの小さい点を《にごり点》という。

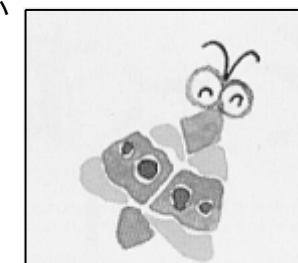
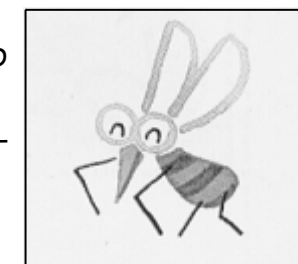
「か」と「が」は、文字にするとにごり点がつくつかないかのちがいだけど、音もちがう。

(右絵を提示して)あらわすものもこんなにちがってくる。

「が」の文字の練習。

にごり点の書き方、大きさに気をつける。

「が」のつく単語をさがす。



学校図書「こくご 1ねん上」より

濁音の指導について気をつけたいこと

1, 清音と濁音との対立の中で教える。(「かき - かぎ」のように)

2, な行やま行などににごり点がつかないのはどうして?という疑問。

清音は、無声音の子音+母音からなっている。一方、濁音は、有声音の子音+母音となっている。にごり点のつかない行の音節は、どれも「にごった音」であって、対立する「すんだ音」がない。有声音・無声音の違いをはっきりと覚えることはむずかしいが、本文に示しているように、のどに手をあてて静かに発音するとわかりやすいかもしれない。

3, 「じ」と「ぢ」「ず」と「づ」について。

1年生の段階では、どちらも同じ音をあらわす、ということを教えておけばよい。それでも疑問をもつ子には、「た行」「だ行」の発音が「おかしい」(破裂音と破裂摩擦音の混在)ことを考えさせてみる。子音「t」で発音すれば、「ta ti tu te to」は、「た ていとう て と」となる。へボン式のローマ字表記では、「ta tsi tsu te to」となっていて、発音を表現している。これは、ささやき声で「た ち つ て と」を発音させてみるとわかる。「ち」「つ」の摩擦している音が耳につくだろう。つまり、「ち」「つ」は「し」「す」と共通した音になっているのである。これが、濁音となったときには、ほとんど同じ音になることになる。

4, 連濁について

また、表記の問題として、連濁がある。「はな+ち=はなぢ」「ふるしき+つつみ=ふるしきづつみ」。「かき - かぎ」のように、音がちがえばあらわすモノもちがうというのが大原則だが、連濁ではこの原則がくずれる。これは、今後の語彙の学習の中でしっかりとおさえるようにしたい。

ぱ行

の指導 6 / 6

「は行」には、にごった音「ぱ行」のほか「ば行」の音があることを知り、「ぱ」と表記することを知る。

復習

これまでの学習を50音図によってたしかめる。にごった音は、以上で終わっていることをおさえる。

「はん」「ばん」「ぱん」を示す絵を提示、単語を導く。

・これは何ですか？

「はんこ」と出れば、ここでは短く「はん」ということにします。

「ばん」については、一日の終わりの暗くなったときのこと、などというヒントを出します。一日の最後にする食事。夜のあいさつなど。

それぞれの単語の音をたしかめ、ちがう音を出させる。

・発音してみよう。

・同じ音は何？ 「ん」

・ちがう音は？ 「は」「ば」「ぱ」

音がちがうことで、あらかず単語の意味がちがうことをおさえる。表記のしかたを知る。

「はん」「ばん」は、既習なので、表記させる。

「ぱ」は、「ば」のにごり点のかわりに小さく丸をつけることを教える。

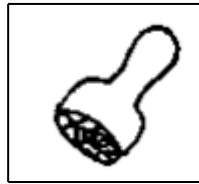
練習

ワークシートなどで、「ぱ」の練習をする。

「ぴん」「ぷりん」「ぺん」「ぼすと」などの絵を提示して、「ぱ行」の音をさがす。

「ぱ行」のまとめをする。

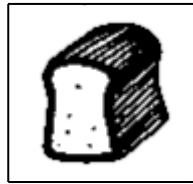
「ぱ行」の音は、「は行」の文字に小さい丸をつけてあらかずこと。



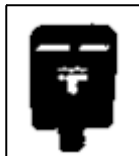
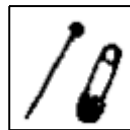
はん



ばん



ぱん



練習

ワークシートなどで、「ぱ行」の練習をする。

音遊びをする

・「ぱ行」に「ん」をつけ、続けて二度くりかえして読んでごらん。

ぱんぱん ぴんぴんぴん ぷんぷん ぺんぺん ぼんぼん

・同じように「ち」をつけてやってごらん

ぱちぱち ぴちぴち ぷちぷち ぺちぺち ぼちぼち

・「ぱ行」の音は、ものの音やようすを表すときによくつかわれます。「ぱ行」と比べてみてもおもしろい。さがしてごらん。

ぱたぱた ぱたぱた びりびり ぴりぴり ぼとぼと ぼとぼと・・・

「ぱ行」を50音図にあてはめて整理し、かな文字を全部学習したことを知る。

発音について(子どもたちの実態をみて、教えられるようなら取り扱ってもよい)

・「はん」「ばん」「ぱん」を言ってみて、気がつくことはない？

・手のひらを口の前にして、読んでごらん。

「ぱ」と「ば」のときに、息が強く当たることに気がつく。

・隣と向かい合って、口の動きをよくみてごらん。

声に出さないで読んでごらん。

「ば」と「ぱ」の口のかたちと同じであることに気がつく。

「ば」と「ぱ」が仲間であることがわかる。

これまでの濁音の学習を思い出し、「ば」は「ぱ」が濁った音であることを知る。もとの字は「は」だけれど、音はまったくちがうこと、でも、pa は「は」に小さい丸をつけて書き、ba は「は」ににごり点をつけて書く《約束》があることを知る。

半濁音「ぱ行」は濁音ではない

「ぱ行」は他の濁音同様に「はら - ばら」「ふた - ぶた」のような「対立」の中で教えるが、「は」と「ば」には、本来、発音上の対立はない。本当は、「ぱ行 - ば行」の対立であって、「は行」は別の音なのである。「p」「b」は、ともにくちびるで息の流れを止めておいて、急に開いて発音する「くちびるの破裂音」であり、無声音「p」と有声音「b」とが対になっている。つまり、「ぱ」は「ば」の濁音なのだ。一方、「は行」の音は「まさつ音」で、母音の口がまえで息をはきだし、そのまま母音を発音すれば、「は行」になる。つまり、発音上では「は」と「ば ぱ」は無関係なのである。

それでは、なぜ、表記上は「は」に濁点をつけて「ぱ」をあらわすようになったのか。これは、日本語の発音が歴史的に変化してきたことによる。昔の日本語では、「は」は[pa][fa]のように発音していた。だから、「は」の濁音は「ば」でいいのだが、「は」の発音が次第に変化し、現在の[ha]となってしまったのに、表記のしかたが昔のまま残ったので、このような現象が起きているのである。昔、「母」は「パパ」だったのだ。